



156 SPORT WAGON

絶滅が危惧される156の3番手として登場するのはスポーツワゴンだ。

現行型の159にはステーションワゴンの設定がないとあって、

入庫から売約済にいたるスピードは上がるいっぽう。

これを業界用語で「足がはやいモデル」なんていう。つまり右から左に売れていく。

よって、流通量は激減し品薄状態にある。

絶滅危惧種 / 3



156スポーツワゴンは2000～02年：前期型／02～03年：中期型／03～05年：後期型の3世代に分けられる。フロントマスクは前期と中期型がほぼ同じで、インテリアは中期と後期型が同一だ。そして、パワーユニットは4種ある。2ℓ直4・ツインスパーク（前期型）／2ℓ直4・JTS（中期／後期型）／2.5ℓV6（前期～後期型）／3.2ℓV6（03年登場のGTA）。組み合わされるトランスミッションは、直4がセレスピード、V6がQシステム（GTAはセレスピード）となる。

東京・世田谷のアルファ・ロメオ田園調布 アブループドカーセンターから得た情報によると、相場は直4モデルが180～300万円前半、2.5V6は200～300万円後半付近が目安となる。また、GTAは400～450万円前後が基準だ。全

体的な相場は、セダンと比較すると若干高めに推移していく、さらに2.5V6は直4モデルに比べて20～40万円前後高いとみていいだろう。

正規ディーラーの扱う車両の主流は後期型になっている。やはり人気もこのモデルが高いようだ。ただし前期／中期型は、あのフロントマスクに根強い人気があり、また前期型にしか搭載されていないツインスパークを求めるクルマ好きも少なくないという。ただし、走行3万km以下の前期型はほとんど出てこなくなっているから、これぞ絶滅危惧種に指定してもよさそうだ。直4とV6は、人気／流通量ともイーブンといったところ。ちなみに、GTAとスポーティ仕様のTIを探している方には「量的にかなり厳しい状況」とお伝えしておかなければなるまい。

ところで流通量をボディカラーで見てみると、高年式になるほど赤の比率が減っていく傾向にあるそうだ。前期型では6～7割が赤となるが、後期型になるとシルバーや黒などの勢力が増して、赤は2割程度にまで減少する。人気は、赤と最近流行の黒が二分するもよう。

同店の担当者は、常時3～5台をストックしているものの、人気が高く需要に供給が追いつかない状況と話してくれた。都内でも屈指の規模を誇るアブループドカーセンターでも、在庫総数の1割にも満たないわけだ。走行距離の少ない156スポーツワゴンを探している方は急いだほうがいいかもしれない。特に買いたい前期型は正規ディーラーの展示場から消える日も近いだろう。



アルファ・ロメオ田園調布 アブループドカーセンターで見つけた希少モデルのTI 2.5 V6 24V Qシステム。TIは、キセノン・ヘッドライト／サイドスカート／17インチタイヤ＆オリジナルデザインのアルミホイール／ローダウン・サスペンション／スポーツレザーシートなどが装備されるスポーティ仕様。取材協力＝アルファ・ロメオ田園調布 アブループドカーセンター（04年式・走行2.2万km・価格378万円）Tel.03-3721-1565

走行距離の少ない中期型の2.5 V6 24V Qシステムのフロントマスクはいまも根強い人気があり探している人も多い。組み合わされるインテリアは前期型をアップグレードして高級感が高められた後期型と同一タイプ。おいしいところをとった1台なのかもしれない。買いたい人は多い。取材協力＝アレゼ市川（02年式・走行2.7万km・価格239.4万円）Tel.047-356-9596

156 SPORT WAGON

ルックスだけで選んでも後悔しません！

ご存知のように欧州ブランドから放たれるDセグメントのステーションワゴンは、実用性よりスポーティなルックスや走行感覚を優先させるのが主流になっている。156スポーツワゴンも、まさに見た目のカッコよさとセダンに負けない動力性能が最大のセールスポイントとなる。なだらかな弧を描きながら落ちていくルーフラインなどはクーペのようだ。デザインを担当したアルファ・ロメオのチエントロスティレは、ステーションワゴンにクーペの雰囲気を与えるのに成功したといえるだろう。セダン以上にカッコいいという人が多いのもわかる。で、犠牲になったのは荷室の広さ。ハッキリ言ってステーションワゴンにしては狭い。というか、156セダンより荷室容量は少ない。それもそのはず、全長(4430mm)とホイールベース(2595mm)はセダンとまったく同一なんである。そう、リアのオーバーハングを1mmも延長しなかった潔さ。これぞ156スポーツワゴンの真骨頂、さすがアルファ！ということになるのかな。

悩ましきスポーツワゴン選び

さて、156は3世代に分けることができる。中古車選びのポイントは、世代で異なるフロントマスクとインテリア、そしてエンジン(直4)にあると思う。

前期型(00~02年)はお馴染の癒し顔とシックなインテリアが目印で、2ℓ直4のツインスパークと2.5ℓV6ユニットが用意されていたモデル。中期型(02~03年)になると、インテリアをアップグレードしてぐっと高級感が高められ、バンパーやドアミラーもボディと同色になった。さらに直4エンジンが直噴式のJTSに換装されている。そして、ジウジアーロの手により顔のデザインを刷新したのが後期型(03~05年)だ。ちなみに、中／後期型にはBOSEサウンドシステムが採用された。また03年にGTA、04年にはTIが追加設定されたのも見逃せない。このように、まずは癒し顔か気合い顔か、そして直4かV6か、さらに直4でもツインスパークかJTSか、を選択しなければならない。フロントマスクのデザインに関しては好みがはっきり別れるのだろうが、パワー単位は3種、いやGTAを加えれば4つのタ

通りに選べる。ただし、走行3万km以下のツインスパークを探し出すには時間と運が必要になるだろう。市場から消えつつあると言っても過言ではない。

アルファは高級ブランド！？

156は日本においてアルファ・ロメオのブランドイメージを躍進的に高めたモデルだ。いくつかの正規ディーラーに話を訊いてみたのだが、どの店舗の担当者も「アルファというブランドをファンション感覚でとらえているお客様が増えている」と話してくれた。いまやスタイリッシュな高級ブランドとなったアルファは、服や鞄のように自己表現の手段に使われているわけだ。それは決して悪いことではないと思う。クルマでその人のセンスを判断されてしまう時代なのだから、もちろんスタイルリッシュなイメージを持つブランド、そしてクルマを選んだほうがいい。156スポーツワゴンのように操って楽しいクルマだとさらによし！ そのあたりを考えると、156スポーツワゴンはちょうどいいポジションに居るクルマなのだろう。

Text：野田義彦／Photo：丸山ヒロト



撮影車両は前期型の2.5 V6 24V Q-システム。フロントに横置きされる2.5ℓ V6DOHCエンジンは190ps/6300rpm、22.6mkg/5000rpmを発揮。Hパターンのマニュアルシフトモードを持つ4段ATを介して前輪を駆動する。全長4430×全幅1755×全高1415mm、車重1470kg。新車価格は449.5万円(01年)だった。車両協力＝アルファ・ロメオ田園調布 アブループドカーセンター(01年式・156スポーツワゴン 2.5 V6 Q-システム・走行5.7万km・価格198万円)Tel.03-3721-1565